

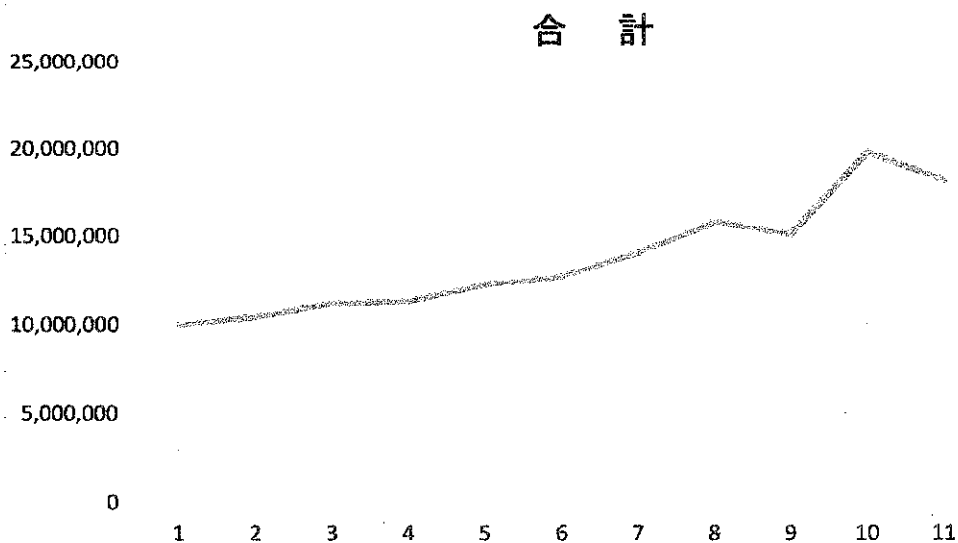


日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発行】
魚谷さとる
(0848-22-2810)
岡野長寿
(0845-22-2596)

増えた貯金を、教育や渋滞解消に!

—岡野長寿市議が予算特別委員会で熱く訴え—

10年間で約2倍に増加している市の総基金残高



尾道大橋の渋滞解消は尾道市の責務!

左のグラフは岡野長寿市議が
総体質問で使ったもので、平成
20年度末(グラフ横軸1)に
は100億円だった総基金残高
が、平成29年度末(グラフ横
軸10)には200億円と2倍
に増えていることがわかります。
特に増えているのが地域振興
基金で40億円積み上げていま
す。同市議が地域振興基金の使

い道を質すと、「29年度から
合併特例債を活用して積み立
てた基金で元本部分は積み立
てたまま、基金運用で生まれ
る利子分をデマンド交通など
公共交通充実のために使う予
定」と答弁。
同市議は元本部分も毎年2
億円までは取り崩すことがで
きることを確認した後、「合併
で広域に通勤、
通学すること
が増えたのに、
『陸の道』し
まなみ海道は
高額の料金で
使にくい、
『海の道』「フ
エリー」航路は
減便・廃止で、
市域を結ぶ幹
線道路が渋滞
して機能して
いないことは
大問題、直ち
にこの改善に
毎年使える2
億円を投資す
べきだ」と訴
えました。が、
まだ理事者は
この問題の重
要性に気が付
いていない答
弁に終始しま
した。

医療費助成の拡大や 教師を増やすことに

また、岡野市議は「ふるさと振興基
金も10年前には4億8千万円が、現
在8億1千万円と2倍になっている」
ことを指摘。その使い道は、子ども医
療費助成の拡充にあてられていること
が明らかになりましたが、それでもこ
こ数年増え続けています。

「子ども医療費助成を高校生まで拡
げることや、市独自に教師を増員して、
教師の多忙化・超過勤務を解消し、3
5人学級など、遅れている広島県教育
の改善の予算組をすることに使うべき
ではないか」と質しましたが、理事者
は、その認識に未だ達していません。

予算特別委員会で行った質問(一部)

- 地方交付税の増額見込みと個人・法人市民税の減額要因、市債(借金)と公債費(返済)の見込み
- 消費税増税による市に利用料、使用料値上げによる収入総額と国への納付
- 御調ふれあいタクシーの改善と周辺部での実施
- 子どもの医療費助成の国、県、市の負担分と高校卒業までの拡大
- 介護施設の整備と特別養護老人ホームの増床
- シルバー人材センターや高齢者事業団への市の発注方法の改善
- イノシシの農業被害と捕獲実績、その対策
- デリバリー給食の改善と給食費の無料化
- 国民健康保険会計の保険給付費増加の要因
- 後期高齢者医療保険料の軽減特例の状況
- 病院事業の収支と地域医療構想の受け止め

市民要望かかげて活発に質問・提案

—予算特別委員会で共産党市議団—

予算特別委員会(3/11~14の4日間)の各会派の質問状況

| 会派名 | 議員名 | 質問項目数 | |
|-------------|-----------------------------------|-------|-------|
| | | 会派 | 一人当たり |
| 共産党 | 魚谷さとる 岡野長寿 | 28 | 14 |
| 創生会 | 飯田照男 田頭敬康 岡野斉也 宇根本 茂 大崎延次 新田賢慈 | 6 | 1 |
| 平成会 | 柿本和彦 高本訓司 吉和 宏 二宮 仁 巻幡伸一 | 17 | 3.4 |
| 新和会 | 宮地寛行 山根信行 星野光男 | 5 | 1.7 |
| 尾道未来 クラブ | 前田孝人 石森啓司 杉原孝一郎 | 15 | 5 |
| 公明党 | 福原謙二 加納康平 荒川京子 | 1 | 0.3 |
| 市民連合 | 檀上正光 城間和行 山戸重治 | 20 | 6.7 |
| 誠友会 | 佐藤志行 藤本友行 | 4 | 2 |
| 計 | 27名 | 96 | 3.6 |

※吉田尚徳議長を除く全議員で構成。